

1200度の臨場感 工芸体験

ガラスの里

最近ときめきがない！ 日々、仕事に忙殺されていると、そんな気になるもの。実は、キラキラした場所が広島市内にある。ヨーロッパ風の建物が並び、メルヘンチックな雰囲気漂う「ガラスの里」(安佐北区大林2)。吹きガラスやステンドグラスなどのガラス工芸も体験でき、家族連れを中心に人気だとか。学芸員の河合希代美さん(41)に魅力を聞いた。

【山田尚弘】

遊びに
みんな

鏡の迷路 博物館も人気

—1984年のオープンですね。

ガラスを専門にしたテーマパークは当時としては珍しかったそうです。街を挙げてガラスを売りにしている地域はありますが、一つの企業でこの規模の場所は他にありませんね。元々は国道沿いに工房を一つ設けていましたが、毎年リニューアルを続け、建物数はどんどん増えていきます。どのような体験が目的の方が多いのでしょうか。

工房が四つあり、吹きガラス体験、ステンドグラス作り、マドラーやトンボ玉づくりの



ほか、万華鏡やキャンドル作りなど10種類以上の製品を作ることができます。季節によっては特別なメニューも用意しています。これからのおすすめは風鈴作り体験ですね。大人の方には溶けたガラスで風鈴作り、子どもさんには無地のガラスに絵を描いていただきます。

特に人気なのは吹きガラス体験です。1200度の炉の前で作る臨場感がたまり

学芸員 河合希代美さんに聞く

ません。アメ状に溶けたガラスを巻き取る作業や、熱い空気が出ている炉の中にガラスを入れて軟らかくし、形を整える作業を体験していただきます。コップや一輪ガシを作ることもでき、名前も入れられます。一つ3500円(税別)です。

親子連れに人気なのが、ビーズのアクセサリー作りです。幼稚園くらいのお子さんから作っていただけます。すべて自社製品というのが自慢で、色や形や大きさが異なる100種類以上を用意しています。ビーズ作りを使うガラス管によるマドラー作りも人気ですね。

—リピーターも多いのでしょうか。

砂で赤ちゃんの手型や足型をとり、そこに溶けたガラスを流し込む製品作りも体験できますが、「幼少期に親に作ってもらったから、子どもにも作ってあげたい」というお母さんも来てくださいます。

園内には鏡の迷路や、傾いた部屋がある「ガラスの城」、古代の珍しいガラス作品や現代作家による芸術品を集めた「ガラス博物館」もあります。言葉では説明しきれない魅力にあふれていますので、ぜひお越しください。

ガラスの里
ビーズメーカー「トーホー」(西区)の創業者が1984年、地域貢献のため、ガラス製品が作れる体験工房を工場横に作ったのが最初とされる。

【入館】山陽自動車道広島ICから車で約30分。美術館と博物館のミュージアムゾーンの共通チケットは大人1000円、高校生700円、小・中学生500円。ガラスの城は高校生以上200円、小・中学生100円。開館は午前10時～午後5時。問い合わせは082・818・0414。休館日は毎週火曜日と年末。

【恋人の聖地】2013年に「プロポーズにふさわしいロマンチックな場所」としてNPO法人地域活性化支援センター主催の「恋人の聖地サテライト」に認定された。



かわい・きよみ 1975年3月生まれ。廿日市市などで育つ。97年3月、広島女学院大生活科学部を卒業し、トーホーにガラスの里学芸員として採用される。昨年5月からガラスの里副支配人。